

● 7号館 1階 環境研究室6 ●

森を調べる

宮浦研究室

森林の中の樹木や他の生きものはどのような生活をしているのでしょうか。また、森林と人のかかわりにはどのような歴史があるのでしょうか。現在進めている研究の中からいくつかのトピックスをご紹介します。



● 樹木の光環境

樹木は、光のエネルギーを利用して光合成を行います。森林の中には沢山の樹木が生活しています。大きな木もあれば、小さな木もあります。年中葉をつけている木(常緑樹)もあれば、暖かい季節だけ葉をつけている木(落葉樹)もあります。森林の中では光がどのように分布しており、季節によってどのように変化しているのでしょうか。エネルギーの源である光は、いろいろな樹木によってどのように利用されているのでしょうか。

● 虫こぶ

ヌルデという植物を知っていますか。ウルシの仲間ですが、ウルシのようにひどくかぶれることはありません。ヌルデの葉には、ヌルデミフシというアブラムシが寄生して、虫えい(虫こぶ)を作ります。この虫えい

は五倍子(ごばいし)と呼ばれ、タンニン含有率が高いので、昔は薬用や染料として利用されました。お歯黒(昔の女の人が歯を黒く染めるの



にも利用されました。

虫えいができる植物はたくさんありますが、その多くは植物ごとに決まった種類の虫によって作られます。虫えいの中で卵から孵化し、植物の栄養を吸収して育ちます。虫えいは植物にとってどのくらい迷惑な存在なのでしょうか。

● 里山



瀬田学舎は森の中にあります。かつてこの森林は里山として利用されてきました。

石油やガス、

電気といった便利なエネルギー源を利用できなかった昔の人々は、里山から薪や炭を手に入れていました。また、里山の落ち葉を掻き集めてきて、肥料として利用していました。里山と人のかかわりについて、考えてみましょう。